



## ケニア

# 52 園芸作物処理施設建設事業

A  
B  
C  
D

園芸作物の品質保持施設を建設することにより、収穫後処理の改善を図り、もって小規模園芸農家の所得向上、貧困削減ならびに輸出増を通じたケニアの外貨獲得能力の向上に寄与する。

承諾額/実行額 20億1,600万円/20億1,600万円  
借款契約調印 1993年10月  
借款契約条件 金利2.6%、返済30年(うち据置10年)、部分アンタイト  
貸付完了 2001年7月



外部評価者 前川晶 (インテムコンサルティング(株))  
現地調査 2003年7月

## 評価結果

本事業では、農業国であるケニアにおいてコーヒーと並び主要生産・輸出品である園芸作物(インゲン豆、切り花等)の品質保持のための予冷・保冷施設(計265トン/日)等を、当初4カ所に建設する予定であったが、市場環境の変化にあわせ、実際にはナイロビなど8カ所に予冷・保冷施設(計195トン/日)等が建設された。期間は詳細設計の見直し等により計画を大幅に上回り、事業費は予想を超えた物価上昇もあり計画を上回った。本事業は、実施機関である園芸作物開発公社(HCDA)が施設を運営し、小規模農家による利用を想定していたが、民間業者による同種の施設建設や優れたサービスの登場等を要因として、現在、建設された施設のうち予冷・保冷施設として利用されているのは1カ所(マチャコス集荷場)のみである。7カ所(マチャコス集荷場含む)は園芸作物の集出荷のための計量、梱包スペースとして利用されており、高品質の園芸作物を輸出するために各集荷場で計量、梱包後、ナイロビ園芸センターに集荷され、品質、規格の選別が行われている。受益者調査の結果から、小規模農

家の所得については、事業実施前後で維持または向上がみられ、農産物売価の下落傾向を勘案すれば、本事業による一定のインパクトが認められる。HCDAでは、利用率向上のために民間業者への営業活動などさまざまな努力を行っており、当行も事後監理調査などを通じて、HCDAに対して国内市場開拓等、利用率向上のための助言を行っている。実施機関の技術および体制面は問題ないが、財務面は施設利用率が低いことから大幅な支出超過となっており、実施機関は経営面での民間人登用や人材育成等を進めるとともに、施設の民間業者への貸与等の検討が望まれる。

## 第三者意見

小規模農家のための農作物流通整備の意義はあったが、民間との競合などにより施設の利用率は低迷している。専門性、商業性をもった会社組織にするといった対応などが考えられる。

有識者 Mr. John Moturi Omiti

ニューイングランド大学博士課程修了(農業経済学)。現在政策分析研究院上級研究員。専門は農業経済。

### マチャコス集荷場

首都ナイロビから南東へ約70km離れたマチャコス集荷場は、2000年に施設が完成し、01年から稼働している。同集荷場へ生産物を出荷するのは26の農民グループである。同集荷場では、インゲン豆やサヤエンドウ等を集荷しており、園芸作物取扱量は、01年の36,195kgから02年には112,836kgへと増加している。同集荷場では、農民に対する支払い遅延を生じさせないよう努力しており、農民グループとの契約条件となっている集荷後2週間以内の支払いを実践している。このほか、敷地内および隣接する約6haの畑で大根、キャベツ等の野菜を栽培しており、集荷場運営財源の一部に充てている。



マチャコス集荷場の直営農場



ナイロビ園芸センターの保冷トラック